

# 人文研紀要

第92号～第94号(2019年)

## ◆第92号—2019年(2019年9月発行 A5版401頁)

文法知識の活用を目指してドイツ語テキストを読む —協調学習を取り入れた授業実践をもとに—	西出 佳詩子
英語受動文習得における学習者母語の役割 —日本語話者と韓国語話者に対する実験から—	穂苺 友洋 木村 崇是
フランス・ルネサンスにおける学問の啓蒙化 —ギ・ド・ブルエスの『新アカデミー会員に反駁する対話』について—	小池 美穂
ハワイ日系アメリカ人の生き方 —ライフヒストリー聞き取り調査から—	村上 和賀子
アレクサンダー・ツェムリンスキー —シェーンベルクの「盟友」の実相をめぐって(1)	小林 正幸
ベルリンのユダヤ人救済者たち —ユダヤ人を救った人々(12)—	平山 令二
中華人民共和国における方言番組に対する規制通知等再考	小田 格
植民地台湾で制作、撮影された映画における日本の表象	曾 文莉
中古早期の「使」構文について	高柳 浩平
言語と曼荼羅 —井筒俊彦における〈言語哲学〉—	小嶋 洋介
土方巽試論	中村 昇
朝鮮戦争後の復興支援と国際関係 —東ドイツの北朝鮮支援を中心に—	川喜田 敦子
13世紀末のシトー会レ・シャトリエ修道院におけるジェロー・ド・サルの記憶	北舘 佳史
初期中世アイルランドにおける修道院civitasの空間的機能とその広がり	木村 晶子

◆第93号—2019年(2019年9月発行 A5版380頁)

『日の名残り』における語りの技法—カズオ・イシグロ小論(3)	安藤 和弘
ヘンリー・ジェームズ『黄金の盃』の映像化の考察 —ミドルブラウ文化としてのアダプテーション—	垂井 泰子
したたかに生きる継娘の物語 —『フォーサイト・サーガ』にみるジューンのモダニティ—	前 協子
強意語的機能を持つ英語の罵倒語の進化特性について	新井 洋一
イングランド人のヴァイキングに対する態度 — <i>Ælfric's Lives of Saints</i> における English saints の説話を中心に—	和田 忍
来たるべき政治／哲学のプログラム —エーリヒ・ウンガー『政治と形而上学』とヴァルター・ベンヤミン—	岩本 剛
兵庫県上郡町西田遺跡の年代測定研究 —縄紋時代中期末葉から後期初頭土器の検討—	小林 謙一
Percyvell と牝馬 —その喜劇性に隠された騎士の資質—	貝塚 泰幸
『マントのルームル』における、アーサー王と臣下の騎士達との関係をめぐって	林 邦彦
中世フランス文学における英雄の剣 —ボードゥーの剣オノレをめぐって—	渡邊 浩司
19世紀末から20世紀初頭のアメリカ合衆国における女子高等教育とソーシャルワーク —エミリー・グリーン・ボルチの教育と活動を中心に—	一政(野村)史織
モートンの環境哲学(1)	竹中 真也
女が男になる「犯罪」 —ヘンリー・フィールディングの『女性の夫』を読む—	丹治 竜郎
Henry James “The Aspern Papers” に潜む物語の深淵 —語り手の欲望と遺文の焼失—	畑江 里美
フィリップの手にしたもの — A・S・バイアット『チルドレンズ・ブック』における闇の中の光—	船水 直子

◆第94号—2019年(2019年9月発行 A5版281頁)

Robert Musil in der Hinterbrühl	Nanao HAYASAKA
Swashbuckling in Vietnam: Reading American Mythical Landscapes in Robin Moore's <i>The Green Berets</i>	Hiroaki NAITO
To the Ear of the Other: Rhizome Self-Adaptation in the Works of J. T. LeRoy	Issei WAKE
A Narratological Approach to D. H. Lawrence's "Daughters of the Vicar"	Yoichiro ITAYA
Review: Conspecific Recognition in Non-Human Primates	Yuki HANAZUKA
松浦理英子と一九八〇年代の女子プロレス	黒岩 裕市
探偵小説と諷刺錦絵と『リア王』 —一条野伝平『三人令嬢』—	近藤 弘幸
彝族の詩人・吉狄馬加について	渡辺 新一
洪武三十五年の燕王軍渡江と江北の人々 —とくに『高郵衛選簿』にみえる事例を中心に—	川越 泰博
近世後期の江戸における火事見舞と施行	渡辺 浩一
ハイデガーとリアリティー問題(その一) —カントとハイデガー—	須田 朗